

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 4月えんだより

年主題 「さあ、漕ぎだそう 奏でよう」

年主題聖句 「わたしは道であり、真理であり、命である。」

(ヨハネによる福音書 14章 6節)

暖かな春が来ました。そして新たな出会いの始まりです。新入園の皆さん、ご入園おめでとうございます。一つ大きくなった在園児の皆さん、ご進級おめでとうございます。2024年度も、神様の愛に守られて、心満たされる日々となりますようにお祈りいたします。

「♪ちいさな あかちゃんだったのに こんなに大きくなりました♪神様本当にありがとう♪」お誕生会の時に、この歌を歌います。私達は目にみえないけれど、愛してくださる神様に向かって感謝の気持ちを込めて歌います。子ども達も大好きな歌で、園舎の中でこの歌が流れると、何だか、安心して心が暖くなる歌の一つであります。遠い昔のようにも感じますが、コロナ禍の時には、こうした歌を歌うことも、子ども達はマスクをつけて歌い、歌の回数を制限していました。ただ歌うことでさえ不自由さ感じていたと思います。当たり前に行っていたことや当たり前に行えることが、そうでなくなることは、本当に苦難なことでありました。

2023年12月に神戸市で調査された「子育てアンケート調査」では、2018年と比べて、子どもの育ちや子育てのことを相談できる方が「誰もいない」という回答の方の割合が増加しています。これはコロナ禍で、話すことを自ずと制限してきた習慣も要因として考えられますが、保育園にも地域の方の子育て相談が増えてきていることを感じます。元来、子育ては一人でできるものでは全くありません。ヒトは「共に育む」共育てにより成立してきた営みですが、生活が便利になり、都市化が進み、今では何でも簡単に情報が手に入ることにより、100人いたら100人の育ちがあるのですが、かえって情報が子育てを不安にさせる要因になることも否定できないのではないかと思います。悩みながら選択を繰り返す連続性の中で、分かり合えるのが子育ての営みとも言えるのではないのでしょうか。

新しい先生やお友達との出会い、期待と不安と慌ただしさの中で、思い通りにいかないこともあると思います。むしろ思い通りにいかないのが子どもの育ちです。「さあ漕ぎだそう」はそうした、断絶にさらされた災禍を通り抜け、今一度育ちに最も大切な「交わり」を一緒に持ちましょう。そして、子どもが育ち行く先は、答えがなく、未知の世界と可能性が広がる道ですが、私達も一日一日を神様に祈り、一生懸命に育みを続けていきたいと願っています。互いを信じ、互いを救い合いながら、子ども達の生活と学びの保育園の新たな始まりの時、皆様の変わらぬご協力とご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

4月聖句：「新しい歌を主に向かって歌え。」 <詩編96編1節>

4月	乳児 (0,1,2歳児)	幼児 (3,4,5歳児)
月主題	はじめまして／よろしくね	出会い
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとり愛され大切な存在として生まれる 保育者と一緒に祈り賛美する中で心地良さを感じる 出会うつながりを感じて、安心して過ごす ・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい出会いの中で、毎日祈りと賛美をする生活が始まる。 日々賛美や祈り、聖書の話を通じて。神様イエス様に愛されていると感じる 新たに出会う保育者や友だちとのかかわりの中で、また、新たな環境の中で安心して過ごす・・・
讃美歌	ことりたちは こども改10	ことりたちは こども改10